

「連合2022平和行動in根室」派遣団報告

北方領土(択捉島、国後島、色丹島、歯舞郡島)の返還! 故郷への想いをつなごう! 四島交流を進めよう! ~平和ノサップ集會に、全国から518名が参加~



平和運動の輪を広げていくことを確認しがんばろう三唱をしました。

日本固有の領土である北方領土(択捉島・国後島・色丹島・歯舞群島)は、第二次世界大戦後に旧ソビエトによって不法に占拠され、戦後75年以上が経過した今なお依然としてロシアによる不法占拠が続いている。連合は、北方領土の早期返還と日ロ平和条約の締結を求め「2022 平和行動 in 根室」を9月10日~11日に開催し、連合福島より双葉地区連合の鯨岡圭介議長を団長として、9名で参加した。

初日の9月10日(土)は、北方四島学習会が各会場(A・B・Cコース)で開催され、連合福島9名は、Aコース 北海道立北方四島交流センター(二・ホ・ロ)で開催された「北方四島の自然と領土問題」・「海から考える北方領土返還運動」に参加した。参加者からは、「当時の事実がわからなかったことや、参加し初めてわかったことが多数あり、貴重な話が聞けた」などの声があった。

翌日の9月11日(日)には、納沙布岬・望郷の岬公園で、518名の仲間が全国から駆け付け「平和ノサップ集會」が開催され、連合・芳野会長の挨拶をはじめ多くの来賓を迎え行われた。元島民(択捉島出身)鈴木咲子氏の「願いは島に帰ることであったが、歳月は虚しく過ぎ去り、不法占拠から77回目の夏を迎え、元島民の生存者は6,000人を切り、平均年齢は87歳に近づいている。自分が生きている間に故郷の土を踏みたい、戻りたい。」との切実な想い・願いを聞くたびに心が痛んだ。



望郷の岬公園(四島のかげ橋)

こうした中で3月、ロシア政府は、ウクライナ情勢に関連して日本が行った措置を踏まえて平和条約交渉を継続しない、四島交流等の事業を中止する、共同経済活動に関する対話から離脱する等の措置を発表した。しかし、今回の事態は全てロシアによるウクライナ侵攻に起因して発生しているものであり、日本側に責任を転嫁しようとする今般のロシア側の対応は極めて不当であり断じて受け入れることはできない。



美しい青空が広がる「納沙布岬」



「きぼうの鐘」と参加した派遣団の皆さん

集會では元島民の訴えや竹島問題に取り組む、連合島根・黒目副事務局長の報告があった。「日本国政府には、1日も早い北方四島の一括返還実現に向けて、対ロシア外交交渉に毅然たる態度で臨むことを求める。そして3年振りに北方領土返還運動原点の地である根室に結集した私たちは、北方領土問題や

元島民の方々の想い・願いを自らの課題として心に刻み、平和運動の輪を広げていくことを、ここに確認しあう」とする集會アピールを満場一致で確認し、集會を閉会した。今回の根室は、天候にも恵まれ、鯨岡団長のもと、団結して役割を果たす事ができた。参加者の皆様に改めて感謝申し上げる。(記: 県南地域連合 根本 茂)